

# たまねぎレポート【第380号】



令和元年6月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

5月の天候は、北・東・西日本で日照時間がかなり多く、気温はかなり高かった。。北日本の月平均気温は、平年比+2.7℃となり、統計開始以来5月として1位の高温となった。降水量は、西日本の日本海側でかなり少なく、北・東日本の日本海側と西日本の太平洋側で少なかった。西日本の日本海側では、月降水量が平年比35%となり、統計開始以来5月としては1位の少雨となった。6月の天候は晴天が多く、上旬は気温の高い日が多く、中旬は平年並みだった。今年、西日本地方は梅雨入りが遅く、今日漸く梅雨入り宣言があった。

気象庁の7~9月の3か月予報によると、平均気温は、沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、東・西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。

7月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北日本の太

平洋側と東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。

## 主要(市場)の動き

### 野菜の概況

5月の建値市場の野菜の販売量は、233,983トン前年比96%で、品目別では多少の増減はあるものの、総ての市場で前年比減となっている。平均単価は、福岡・名古屋市場以外は前年比安に逆転した。平均単価はkg ¥214前年比97%となっている。市場別の入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比98%、平均単価はkg ¥208で前年比90%。東京市場の入荷は前年比96%、平均単価はkg ¥223前年比97%。名古屋市場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg ¥215前年比100%。大阪本場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg ¥210前年比98%。福岡市場は前年比98%の入荷で、平均単価はkg ¥163前年比101%となっている。

建値市場の5月の玉葱販売量は29,937トン前年比113%で、平均単価はkg ¥84前年比97%となっている。数量増の価格安に転落した。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,704トン前年比138%、平均単価はkg ¥102前年比111%。東京市場の販売量は14,481トン前年比112%、平均単価はkg ¥87前年比97%。名古屋市場の販売量は4,908トン前年比90%、平均単価はkg ¥78前年比97%。大阪本場の販売量は4,110ト

ン前年比129%、平均単価はkg ¥ 70前年比83%。福岡市場の販売量は2,534トン前年比129%、平均単価はkg ¥ 78前年比92%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、全国主要7地区の代表荷受7社の5月の主要野菜14品目の販売量は、101,287トンで前年比2%減、平均単価はkg ¥ 127前年比5%安で、過去5年比で最安値となっている。販売量が前年比増の品目は、タマネギが前年比17%増、ホウレンソウが9%増、ナスが7%増など5品目。前年比減の品目は、サトイモが前年比20%減、ニンジンが16%減、キャベツが10%減など3品目。価格が前年比高の品目は、キャベツがkg ¥ 87で前年比36%高、サトイモがkg ¥ 422で29%高、ジャガイモがkg ¥ 118で9%高など4品目。前年比安の品目は、ホウレンソウがkg ¥ 387で前年比20%安、ネギがkg ¥ 358で16%安、キュウリがkg ¥ 196で14%安など9品目。なお、タマネギはkg ¥ 73で5%安となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷は、136,302トン前年比96%(前月比106%)。平均単価はkg ¥ 223前年比97%(前月比92%)となっている。主要品目で入荷が前年比増の品目は、タマネギが前年比112%、ナス・ホウレンソウ・ピーマンが105%など7品目。入荷が前年比減の品目は、ニンジンが前年比77%、キャベツが86%、トマトが91%など8品目。販売単価が前年比高であった品目は、キャベツがkg ¥ 96で前年比151%、サトイモがkg ¥ 377で120%、レタスがkg ¥ 160で106%、バレイシヨがkg ¥ 132で112%など5品目。前年比安の品目は、ホウレンソウがkg ¥ 370で前年比83%、キュウリがkg ¥ 215で83%、ナスがkg ¥ 341で84%など10品目。なお、タマネギはkg ¥ 87で前年比97%となっている。

## 東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	136,302	95.9	105.7	223	96.9	92.2
た ま ね ぎ	14,481	112.0	109.8	87	96.6	71.3
キ ャ ベ ツ	17,175	86.0	89.7	96	151.4	106.7
は く さ い	6,570	94.1	102.7	48	93.0	64.9
だ い こ ん	9,253	103.0	92.7	80	93.6	83.3
ば れ い し ょ	9,658	102.0	108.7	132	111.6	100.0
レ タ ス	7,602	96.7	111.5	160	105.5	80.4
に ん じ ん	7,965	76.8	101.5	124	94.1	102.5
ト マ ト	10,019	91.2	137.5	246	91.2	68.3
き ゆ う り	8,460	91.8	115.3	215	83.2	93.9
ね ぎ	3,729	103.4	100.5	370	87.3	138.1
か ぼ ち ゃ	2,592	104.1	103.3	190	95.1	114.5
な が い も	877	85.3	91.5	347	114.8	102.7
れ ん こ ん	280	80.7	69.3	750	130.2	114.3
に ん に く	343	99.0	119.9	875	87.0	92.7

### 玉葱の概況

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷量は、14,481トン前年比112%（前月比110%）であった。北海物が前年比95%と減少したが、府県物の豊作で潤沢な入荷となった。主力の佐賀物の入荷は8,603トン前年比108%、占有率59%で前年比3ポイントダウン。北海物は2,744トンの入荷量で前年

比95%、占有率19%で前年比4ポイントダウン。兵庫物は785トンの入荷で前年比155%、占有率5%前年比1.5ポイントアップ。千葉物は690トンの入荷で前年比233%、占有率5%で前年比1ポイントアップ。月平均単価はkg¥87前年比97%(前月比71%)で、値下がりに転じた。産地別平均単価は、北海物がkg¥134前年比125%。佐賀物はkg¥75前年比90%。兵庫物はkg¥84前年比92%。千葉物はkg¥64前年比75%となっている。北海物高の府県物安の相場となっているが、北海物は事前契約の関係で高い。

6月に入り、主力産地の佐賀物に腐敗やカビの多発生があり、小売り店からのクレームが相次ぎ評判を落とした。兵庫物は割高で佐賀物に比べ20kg・L級で¥500以上の高値であったが、多少高くても品質不安のない品物を求める動きが強まった。後続の栃木物も入荷しているが、L中心の球流れで品質は良好だが、ネット袋のため売り辛い。中旬には、佐賀、兵庫、愛知、栃木、香川、千葉と各産地が出揃い、入荷増で荷動きが鈍化した。今週も入荷は順調で、荷動きが鈍く荷凭れ状態だが、主産地からの指示価格が高く、安売りは自重している。1日～20日の入荷は8,010トン前年比107%、平均単価はkg¥72前年比95%。産地別の入荷量と販売単価は、佐賀物の入荷は4,481トン前年比107%、単価はkg¥64前年比97%。兵庫物は962トンの入荷で前年比112%、単価はkg¥91前年比99%。香川物は508トンの入荷で前年比91%、単価はkg¥76前年比90%。栃木物は361トンの入荷で前年比96%、単価はkg¥60で前年比98%となっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中心卸売市場の5月の玉葱販売量は、4,908トン前年比90%(前月比77%)で前年比、前月比ともに大幅減であった。主力は地場産の愛知物で販売量は、3,031トン前年比100%、占有率は62%前年比7ポイントアッ

プ。北海物の販売量は1,238トン前年比65%、占有率は25%前年比10ポイントダウン。兵庫物の販売量は534トン前年比134%、占有率は11%前年比4ポイントアップ。愛知物は、豊作で産地では前年比120%以上の出荷を計画していたが、入荷は意外に少なかった。平均単価はkg¥78前年比98%(前月比74%)で、入荷減ながら軟調な推移であった。産地別では、愛知物はkg¥73で前年比90%。北海物はkg¥84前年比115%、兵庫物はkg¥78前年比91%となっている。

6月の主力は前月に続き愛知物で、兵庫物の入荷が増加傾向となった。愛知物の球流れは、L中心で品質は良好である。総じて荷動きは鈍化傾向となったが、割安の2Lは引き合いあり強含みの動きであった。中旬には、愛知の品種はアドバンスから中晩生のターザンに代わり、球流れは2Lが40%を占め豊作型である。入荷量は多くはないが、荷凭れ状態で多少の在庫を抱えながらの販売で、販売環境は厳しく苦戦。一部売価と仕切値が逆ザヤとなり、採算割れの販売となった。品質的には兵庫物が優位にあり、割高ながらそれなりに捌けている。既に、愛知の主産地碧南地区の出荷は終盤期にある。品種は中晩生だが、豊作型で球流れは2Lが40%もあり、軟質で品質的に難があり、客離れを招いている。兵庫物は割高だが良品で受けているが、産地の希望値が高く、一部¥2,000に仕切っているものの、実勢価格は¥1,800である。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は、4,110トン前年比129%(前月比103%)で潤沢な入荷であった。北海物は在庫減で前年を大きく下回ったが、府県産が豊作で大産地の佐賀、兵庫物を始め中小産地の入荷も前年を大きく上回り数量増となった。主力は兵庫物で、販売量は1,891トン前年比139%、占有率46%前年比3ポイントアップ。佐賀物は1,657トンで前年

比145%、占有率は40%で前年比4ポイントアップ。北海物は196トン前年比60%、占有率は5%前年比5ポイントダウン。月平均単価はkg¥70前年比83%(前月比60%)で、続落歩調となった。産地別では、北海物がkg¥110前年比110%。兵庫物はkg¥72で前年比77%。佐賀物はkg¥65で前年比87%となっている。北海物は、事前契約のため割高となっている。

6月に入り、いずれの産地も中晩生に移行し、入荷は減少傾向で需給は均衡状態となったが、活気がなく保合相場が続いた。月半ばには、入荷は再び増加傾向となり、相場は弱気配となった。荷動きが冴えない中、JA淡路島からは、20kgL¥2,000の販売要請があり、対応に苦慮している。現在の実勢相場は¥1,800~1,700で、一部を高値¥2,000で販売し、多くを¥1,800~1,700販売で凌いでいる。今週は、休市のあとG20の首脳会議で、厳しい交通規制が実施され入荷が激減すると予想されているが、休市前日も買い気が盛り上がり、相場は弱保合に終始した。1日~20日の入荷量は、2,522トン前年比128%。平均単価はkg¥87前年比112%。産地別の入荷量と平均単価は、兵庫物の入荷は1,141トン前年比102%、単価はkg¥83前年比94%。佐賀物の入荷は687トン前年比112%、単価はkg¥61前年比102%。北海物の入荷は506トン前年比393%、単価はkg¥143前年比147%。北海物は事前契約で高く、府県物は入荷増増で価格安の展開となっている。

### **福岡市場**

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱の販売量は、2,534トン前年比129%(前月比92%)で、前年比増、前月比減となっている。主力は佐賀物で販売量は1,651トン前年比161%、占有率は65%前年比13ポイントアップ。北海物の販売量は311トン前年比77%、占有率12%で前年比5ポイントダウン。長

崎物は256トンの販売で前年比101%、占有率は10%で前年比3ポイントダウン。平均単価はkg¥78前年比92%、前月比75%で軟調相場が続いた。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥70前年比89%、北海物はkg¥123前年比117%。長崎物はkg¥66前年比81%となっている。北海物の高値は事前契約で末端に売れつないでいた契約物である。

6月に入り、主力の佐賀物は、中生種になり数量・品質ともに安定化して来たが、球流れは2Lの比率が下がり、バラ売りの需要に追い付かなくなった。割安だった2Lは入荷減で、2L相場は保合を維持したが、気温の上昇もありLの動きが鈍化し値下がりがした。月半ばからは、順調な入荷が続いたが、値頃感相場となったことで荷動きは回復傾向となった。福岡物は入荷量は少ないが、品質は抜群に良く、高値で捌けている。長崎物は品質的に見劣りする。JA白石から、7月1日より、除湿乾燥品の出荷開始の連絡あり、品質が良ければ上げ相場に転じるように勉売したい。1日～20日の販売量は1,295トン前年比101%、平均単価はkg¥74前年比99%となっている。

#### 6月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

##### 【札幌市場】 入荷143 トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥1,300～1,100、L ¥1,700～1,500、M ¥1,500～1,300。

栃 木 20kgNT2L ¥1,400～1,300、L ¥1,600～1,450、M ¥1,450～1,450、

##### 【太田市場】 入荷206 トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥1,200～1,100、L ¥1,400～1,200、M ¥1,300～1,100。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,400～1,300、L ¥2,000～1,800、M ¥1,800～1,700。

栃 木 20kgNT2L ¥1,100～1,000、L ¥1,100～1,000、M ¥1,100～1,000。



**【名古屋北部】 入荷567 トン 弱い**

愛 知 20kgDB2L ¥1,000～ 800、 L ¥1,200～1,000、 M ¥1,100～1,000。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,400～1,300、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,800～1,700。

**【大阪本場】 入荷126 トン 強い**

兵 庫 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥900 ～ 800、 M ¥800 ～ 700。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,400～1,300、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,800～1,600。

佐 賀 10kgDB2L ¥600 ～ 500、 L ¥600 ～ 500。

愛 媛 10kgDB2L ¥600 ～ 500、 L ¥600 ～ 500、 M ¥500～

**【福岡市場】 入荷89 トン 保合**

佐 賀 10kgDB2L ¥600 ～ 500、 L ¥800 ～ 700、 M ¥700 ～600。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,200～1,000、 L ¥1,500～1,400、 M ¥1,300～1,200。

長 崎 10kgDB2L ¥600 ～ 500、 L ¥800 ～ 700、 M ¥700 ～ 600。

福 岡 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,000～ 900、 M ¥850 ～ 800。

**供給(産地)の動き**

遅れていた府県産地の収穫もほぼ終了した。今年は早生の大豊作、中晩生の豊作と続き、現在の産地在庫は前年比120%以上と予想されている。他方、北海道産の生育は順調で、前進化しており、豊作型と報告されている。産地の出荷団体の間では、7月下旬から早出し出荷が計画されている。北海道産が豊作になれば、供給過剰が深刻化し、輸入物の大幅削減がなければ、秋冬期の供給過剰は避けられない状態になる。

**府県産地**

主産地の佐賀、兵庫を始めいずれの産地も豊作で収穫・集荷用ポリコンの容器不足で、収穫・出荷が後ズレした。いずれの産地も近年稀にみる豊作型で、

現在の産地在庫はかなり多い。西日本産地では梅雨入りが平年より遅く、収穫時の天候に恵まれ、中晩生は天日干し、風乾燥が良好で、大粒の割には仕上がりが良好である。

佐賀産地では、早生種は大豊作で、肥大過剰で軟質であったことで、たな持ちが悪く、市場や需要家に迷惑を懸けた。続く中晩生は大粒だが品質は良好と見ている。小屋吊り貯蔵は年々減少傾向にあるが、ハウス貯蔵や除湿乾燥貯蔵が増加傾向にある。今年は、JA、商系の除湿乾燥を始め、ころがし(囲い)と言われる短期貯蔵が、生産者段階で多い。JA白石の除湿乾燥計画は34万ケース(5,440トン)前年実績237,530ケース(3,800トン)と言われている。商系はJAの様に借り上げ倉庫がなく、前年並みか前年をやや上回る程度と見ている。貯蔵物は経費が掛るので、7～8月の市況高を期待している。

兵庫(淡路島)も近年にない豊作型で、生産量は平年比30%増、前年比10%増(前年も豊作型)と予想されている。容器不足で収穫が遅れ、大口生産者の終了は1旬遅れになった。平均反収は7～7.5トン生産量は10万トンを上回る。貯蔵の中晩生の主力品種ターザンも、大粒で葉鞘が太く、首の締りがやや不良な仕上がりが気に掛かる(篤農家の話)。早生種は、肥大過剰で市販に不向きなため、加工に転用されたが、品質良好で予想外に歩留まりが良かった。と言う。中晩生の在庫は多いが、天気続きで天日干し、風乾は良好。生産者は7月相場を期待している。

### **北海道産地**

定植後の5月の気温は平年よりかなり高く、降水量が少なく、日照時間が多く、乾燥気味ながら玉葱には好適な気候であった。6月前半も気温は平年より高めで、降水量はオホーツクの一部を除き平年並みか少なめで、日照時間は平年並みか多く、生育はいずれの地域も、順調で3～5日前進化している。全道的に平年比で草丈長く、生葉数多く、葉鞘径太く、生産者の多くは豊作型と予想している。

## 輸入物

5月の輸入は、速報値で22,522トン前年比100%。中国物が全体の89%を占めている。国別では中国が20,073トン前年比104%。ニュージーランドが1,809トン前年比85%。オーストラリヤが639トン前年比59%。となっている。

中国、出荷期にある江蘇省、山東省ともに減反で、現地相場は堅調であるが、作柄は豊作型と言う。現在価格は、剥き玉20kg・C&F・\$8.00～7.6 の水準。日本の府県産豊作、北海産生育順調で、6～8月の入荷は前年を下回る見通しである。

## 7月の市況見通し

7月市況は、府県産の在庫増と北海産の豊作予想で、仲卸や小売店筋では当用買い傾向が強まり、銘柄価格差は生じるものの、横這い相場が続くと予想。(了)